西東京市市民協働推進センター

平成２４（２０１２）年度第９回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２５年１月１５日（火）　午後７時～９時００分
■開催会場：イングビル３階　第１会議室
■出席委員：有賀委員、有馬委員、岸委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、坂口委員、徳永委員、中曽根委員、原委員、宮﨑委員、吉田委員
＜以上１２名、五十音順＞
■事 務 局 ：内田センター長、板垣、丸木地域福祉課長、篠原主事

１．報　告　事　項

１．西東京市市民協働推進センター業務報告について

事務局より１２月に実施したＮＰＯのための支援事業、１２月の新規登録状況、相談対応状況について報告があった。委員からは新規登録団体の活動内容に関する質問、相談記録に対して団体との連携を促進するような対応をとるよう示唆があった。

委　員：相談記録で、災害ボランティアのところに助成金情報を提供しているが、社協の行っている災害ボランティアについては情報提供していないのか。

事務局：その後に個別のフォローで提供している。

委　員：市内の団体が行っている情報も提供し、団体同士が連携していくといい。市の危機管理室の情報も提供できたらと思う。

事務局：相談者は個人の方でこれからグループを作ろうとしている人である。

委員長：これからは重要な分野である。新しく会を作るのは良いと思うし、作った後に側面からのサポートをゆめこらぼでお願いしたい。

委員長：ＮＰＯのための支援事業については出席している委員に情報提供をお願いしたい。

委　員：参加が１０数名。初めて参加された方が６人いたことが良かった。タイトルに惹かれたのかも知れない。ゼロからＨＰを作成する人は頓挫されたりする悩みもあった。今回紹介したツールはテンプレートを提供しているため､はめ込んでいけばいいという手軽さに魅力を感じた人が多かったように思う。

委員長：ＨＰでの情報発信は影響力があると思う。ＮＰＯ団体は高齢の方も多く、実践的な形で話しを聞けたことは良かった。これからも協力いただくことがあるかと思うが、よろしくお願いしたい。

委　員：相談記録の中でコミュニティビジネス講座の希望がある。昨年まで３年続けてやった。私は最後に参加したが、だんだん参加者が少なくなった。３回やったことの検証を行い、この中でグループが誕生したこともあるので、タイトルや作り方を変えて実施することを検討すれば良いのではないか。

事務局：今年度の事業計画作成の際に、コミュニティビジネス講座はスクラップしている。

委員長:コミュニティビジネスの問題解決は非常に重要だと思う。開催等については改めて検討が必要である。

委員長：ゆめこらぼの役割、職員の身分・資格についての質問とはどういったことを質問されたのか。本質的な質問か。

事務局：調べて、次回回答する。

委　員：志民塾講座を地域デビューとしてゆめこらぼがゼロから考えるのは大変だと思う。地域デビュー支援について、公民館はテーマとして外せない。田無公民館長と協力してフェスティバルを行うが、イベントの関係で終わらせず、公民館での参加者を引き継ぐ形で連携しながら考えていけば良いのでは。公民館がどういう講座を予定していて、どんな枠組みをつくると引き継げる形になるのか考えてはどうか。

委員長：具体的な連携の例を教えていただけないか？

委　員：簡単なのは情報提供である。公民館の講座に来ている人にゆめこらぼの情報をお知らせする。公民館は年間企画を持っているので、ゆめこらぼの持っている枠組みの中で市内６館の企画を把握して、ゆめこらぼとして参考にして計画していくのが良いのではないか。

委員長：情報の共有化、公民館で育てた団体をどう大きく育てていくかも重要になってくるかと思う。次年度の本格的な課題となると思うのでぜひ検討してもらいたい。

２．１月以降の西東京市市民協働推進センターの事業について

事務局より１月以降に実施予定の９件（２回のＮＰＯ市民フェスティバル実行委員会（４４団体参加見込み、前年度より新しく１５団体参加９団体辞退）、近隣６市市民活動連絡会、協働に関する情報収集の勉強会、行政職員と市民団体との懇談会、ＮＰＯ市民フェスティバル、ゆめサロン、協働を考えるシンポジウム、まちづくり円卓会議）について説明があった。

委　員：「まちづくり円卓会議」の模擬円卓会議と書かれているが、円卓会議とどう違うか？

事務局：具体的な課題について話し合うというより、１つの擬似的なテーマをつくってやるということです。タイトルがまちづくりということになっているので、西東京市が現実に考えている問題で、それについて話し合う、ということではない。

委　員：模擬というと、本当の円卓会議があるのかと思う。西東京市としてやるわけだから、今回の営みから既に模擬ではない。中途半端な言葉づかいをすると混乱を生むので言い切ったほうがいい。

事務局：そもそも模擬とつけたのは、いきなり本番ということではなく、事前にある程度メンバーを選定して、その人達に事前に仕込んでおくというもの。本当の円卓会議はそうではないと思う。それをみる人からするとそのことは解らないのかもしれないが、一応はその形で今回行う。本番の円卓会議は打合せなしで行う、という区分けになる。

委員長：模擬という言葉が誤解をしやすいというのはその通りなので、混乱を招かないように。
円卓会議を行うにはどういうことが必要なのかということを事前にしっかりトレーニングするということ。ツールとして模擬円卓会議を行うということを当日明確に出すと誤解がないのかと。
次回、円卓会議があると思うので、それは模擬がついていないのか？

事務局：そのつもりである。

委員長：その時も、定義づけをずらしてしまうと、混乱する。

委　員：今回は、どういうことを到達目標にするのか、ということだと思う。行政関係者は？

事務局：行政関係は、公民館に出席をお願いしている。

委　員：今の質問の答えがチラシを見てもどこにも載っていない。予定している１０人がどういう関係者かもわからない。何をやって、それを周りで見るのか、何をしにいくのか、何に参加していいのかがわからない。基調講演を聞きたいというのであればいいが、円卓会議となるとわからない。各方面の関係者１０人とあるが円卓会議メンバーが１０人、つまり模擬円卓会議メンバーが１０人ということか。

委　員：円卓会議は固有名詞なので、円卓会議とは何かという説明が書いてないとわからない。居場所づくりというテーマに対して、利害関係がある、あるいはそれを支援しようとしている人たちがそれぞれセクターに分かれて集まってきて話し合うという対等な会議である。準備会をして、テーマに沿って各セクターから話をしてもらいたい人たちを選んでいくもの。

委　員：その成果は何か。

委　員：いろいろある。テーマを決めて施策を考えることになれば、行政はそれをのせていくかもしれない。

委　員：行政側に提言するということか。

委　員：そういうことではない。行政は参加するセクターのうちの１つである。結果をもとに事業をしようという場合、円卓会議が主体になってもいいし、次にどうするかというのも円卓会議で決めていく。

委　員：円になって話すのなら、なぜ講師がいるのか。

委　員：横田さんは政府の社会的責任や新しい公共で、いろいろな円卓会議をやってきた。社会的責任という言葉に対する基準のようなものとして、ＩＳＯ２６０００がある。それによって組織・団体の社会的責任を決めていこうというものである。横田さんは、日本で初めていろいろな立場の方々を呼んで地域円卓会議を開いた人物である。その一連を、事例を交えて話してもらい、「では実際にやってみましょうか」という流れになるのではないか。インターネットで「地域円卓会議のススメ」を検索するとＨＰからダウンロードできる。各地でＮＰＯを支援するセンターが仕掛けをしたりして、このやり方を始めている。茨城では、この地域の課題は何なのかということから始め、それぞれの立場の人が意見を出した。

委員長：円卓会議というものが何なのか、このチラシでは伝わりにくい。すでに配布している物なので修正はできないが、３月に円卓会議予定となっているので、委員の意見を踏まえて、円卓会議とは何かということや、擬似円卓会議をしようするならばその定義も押さえる必要がある。最新鋭の取り組みをやっていくので、それが伝わらないのはもったいない。問い合せがあった時にはそういうことを加えて伝えてほしい。次回の円卓会議のときは作り方の検討をお願いしたい。

委員長：ワールドカフェとはどういうものか。

事務局: リラックスしてカフェにいるよう形で対話をする手法。５、６人の小テーブルでテーマを決めて話す。全員が安心して話せるようなルール、道具もある。そして、時間を決めてテーブルを移り、多くの人と顔をあわせながら、どのようなことを考えているのかを知ることができる。テーブルに残った人はどのような話が出たかを簡単に紹介し、情報共有する。最後に全員で印象に残ったことなど共有することもある。結論を出すのではなく、思いを確認し合う場になるかと思う。

委員長：注目を集めている手法を使うということなので、同意をしてもらえればと思う。
年度末が近づき、忙しいと思うが、委員の皆さまもご参加頂いて委員会にフィードバックしていただければと思う。

２．審　議　事　項

１．２０１２年度第８回西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録について

委員長：何か質問はあるか。なければ第８回の西東京市市民協働推進センター運営委員会会議録（未定稿）は確定稿とする。

事務局：補足として４ページ２２行目。こちらに「事務局案に了解」の一言が漏れているので追加したい。

委　員：１ページ４８行目は前半を削除してはいけないのか。ここは「選択基準を定めて、それに則って選択した事例集を作成しないことを、運営委員会で決定した」と読み取れるがそうではないのではないか。選択基準は市と社会福祉協議会・ゆめこらぼの間で設けられているし、それに則って事例を選択した事実がある。運営委員会で決めたことは「読み物として作成すること」だから、前半の部分は削除すべきではないか。

委員長：基本的に削除で良いか。委員の言われる通りで良いのではないか。

委　員：「選択基準を定めてそれに則って選択した事例集を作成するのではなく」は運営委員会で出た。

委員長：選択基準がないのかというのは議論があると思う。基準があったとも言えなくもない。実際に記録として残るということもあるので、残すことに意味があるかということを考えた方がいいと思う。

委　員：その点で疑問に思ったので、そのまま聞いた。これは無くていいと思う。

委　員：４４行目に「事例集に選ばれた基準に疑問があり、市に問い合わせたところゆめこらぼで選んだとの回答があったとの指摘があった」と書いてある。この部分に基準という言葉を使っているので、基準という言葉を残さなくてもいいか。基準について判断をしたということを。

委員長：確かに揉めたところではあるが、削除してもいいかと思う。委員の指摘では、基準という言葉を残すかどうかの整合性の問題だが。

委　員：前々回の運営委員会のことを聞いたので、前回がどういう書き方をしているかを記憶していないが。その整合性もあると思う。

委員長：記憶がないので何とも言えないが、確かに議論があって、委員から指摘いただいたというのが実態だったと思う。委員たちの中にも腑に落ちないことがあって議論になったということだった。他の委員で記憶があれば説明していただきたい。

委　員：要は残しておくと何が問題であるのか。文脈が整理されていないからだと思う。事例集は誰が決めたのか。事務局はゆめこらぼと行政なのか、市はゆめこらぼと言っている。事務局は一緒にやった。この基準という言葉を削除するなら、運営委員会の了解のうえで、影も形もなく削除する。市はこう言ったけど、と前回の運営委員会で確認している。もうひとつは、読み物として作成するということを決定している。そういう意図で、読みものとして出す。実態としては行政からの要望は事例集としてきている。

委員長：前回の話し合いの内容を踏まえて、読み物としての事例集を作るということで、運営委員会で了解を得ている。読み物として関心をひくもの。ある種、西東京の協働を代表しているというより、いくつかの取り組みを紹介したもの。

事務局：４８行目の冒頭を削除。読み物として作成するということを運営委員会で決定していただいたことは事実。その後に委員長が前段で言っている西東京の取り組みがわかるようなものということを入れれば内容がとおる。運営委員会で決めたことと、事務局と行政で決めたことを区分けして入れておくという表記ではどうか。そういった形で、今後ＮＰＯ・市民活動が協働を進めるなかで読み物としてわかるということではどうか。

委員長：事務局から話があったように整理をすることでどうか。

委　員：事務局の提案のとおりでいいと思う。

委員長：事例集の取扱いについて確認ができたので、今年度はそのように作成を願いたい。

３．協　議　事　項

１．　次期　西東京市市民協働推進センター　運営委員会委員候補者名簿（案）

事務局から次期運営委員会委員候補者について説明。その後、協議を行い、最終候補を決定した。

２．ホームページの分析について

事務局：ホームページのアクセス数などを月次報告しているが、それだけではなく、もっと活性化できるような分析を、という指摘について検討した。ゆめこらぼのホームページを管理するページ、ツールは標準的なものを使っている。その中でどの程度分析ができるかだが、１５個ある標準メニューをそのまま使っている。どの程度コンテンツを見直して良いのかということは、ページヒット数や、ドメイン別参照元、ページ別参照元で見ていくことしかできないため、充分な分析ができない。ゆめこらぼのＨＰの改善点としては、アクセス元が限定されているため、ツイッターやフェイスブックからアクセスしてもらうことも考えていかなければと思う。

委員長:センター長から分析ツールからいくつかみえることがあるとご説明いただいた。今後分析するときに、何がわかればいいのか、ということがポイントになる。

委　員：こういう結果になることはわかっていた。１２月の広報力アップ講座で教わったことを、今どのくらい充当できるかをまとめる必要がある。何をやるか、というのが無い。今まではアクセス数を取って、その結果をどうかを見るかだったが、途中からそれだけでは足りないということになった。広報で何を目的とするかが大事。ホームページの一義的な目的は広報力ではないか。今までのことを充当できていなければ、変えていくのか考えなければならない。広報力は教えるということでなく、自分たちが聞いて、広報力を高めることを考えなければいけないのではないか。

委員長：事務局からの提案は、アクセスやヒット数だけでは見えないものがあるということであった。今後、ホームページを有効に使うためにどのように客観的に見ていく必要があるのか、意見を伺いながら検討する必要がある。

事務局：提案したことは、標準的に組み込まれたものではデータはとれないということ。これを見る限りではアクセス元は限られているので、アクセスを増やす手段をまずやらなければならない。ツイッターやフェイスブックなど、他の一般の方からもアクセスできる手段を考えてはどうか。分析することよりも母体を大きくすることが大事ではないかということである。

委員長：一つの課題としてこの場で共有できたと思うので、今後も意見をいただきたい。ホームページは課題とは言ってきたが、どこまでいったら活用できるかはわからない。使っている側から意見をいただく事もある。ホームページをどうしていけばいいか意見を伺っていきたい。

４．そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

日時：２月１９日（火）１９時～２１時

会場：イングビル３階　第２会議室